

六甲山系グリーンベルト整備事業
みんなの森づくり

樹木ハンドブック



六甲山系グリーンベルト整備事業
みんなの森づくり

樹木ハンドブック

2014年12月第2版発行
編集・発行 国土交通省 六甲砂防事務所
〒658-0052
神戸市東灘区住吉東町3丁目13-15
TEL:078-851-0535
FAX:078-851-0828
<http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/>



国土交通省 六甲砂防事務所

目 次	I. はじめに	p. 1
	ハンドブックの特徴	p. 1
	六甲山系の植生	p. 1
	II. 検索	p. 2
	樹木の調べ方	p. 2
	葉の見方	p. 2
	葉から調べる	p. 4
	花から調べる	p. 8
	実から調べる	p. 11
	III. 解説	p. 15
	解説ページの見方	p. 15
	アイコン解説	p. 16
	落葉広葉樹	p. 17
	常緑広葉樹	p. 58
	針葉樹	p. 79
	つる植物（木本）	p. 82
	その他	p. 84
	IV. 和名索引	p. 87
	V. 巻末	p. 89

I. はじめに

ハンドブックの特徴

1. 本ハンドブックは、森づくり活動を行う際におきたい樹種や、六甲山を特徴付ける樹木など、計70種を収録しています。
2. ①葉の形 ②花の色 ③実の色 の3つの方法で検索できます。
3. 解説ページでは、見分け方のポイントや特徴、六甲山での分布や生育環境を記載しています。
4. 解説をさらに詳しく知りたい方や、本ハンドブックに掲載されていない樹木について知りたい場合、「六甲山系電子植生図鑑」(<http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/vegetation/>)をご利用ください。

六甲山系の植生

現在の六甲山は緑に覆われていますが、明治の初期は、ほとんど草木のない山でした。今みられる緑は、その大部分が明治以降、植林によって回復したものです。六甲山は、山麓と山頂とで気温差が約6℃、年間降水量の差が約600mmあり、多様な環境を有しています。このため、六甲山地とその周辺域では約1,700種の植物が確認されており、一度は草木のない状態となったにも関わらず、現在では多くの植物が生育しています。現在、六甲山では、コナラ林などの落葉広葉樹林、シイ林及びカシ林などの常緑広葉樹林、アカマツ林やスギ・ヒノキ林などの針葉樹林をみることができます。また、六甲山で見られる樹林は、植栽由来の二次林がほとんどですが、六甲山頂や寺院・神社の周囲には、保護されてきた自然林が残されています。

I
はじめに

II. 検索

樹木の調べ方

葉から調べる

1. 調べたい樹木の葉の特徴を確認します。(p. 2～p. 3 葉の見方)
2. 写真一覧(p. 4～p. 7)から、似た葉を見つけ、そこに記載されているページの解説をご覧ください。

花から調べる

写真一覧(p. 8～p. 10)から、調べようとしている樹木に似た花を見つけ、そこに記載されているページの解説をご覧ください。

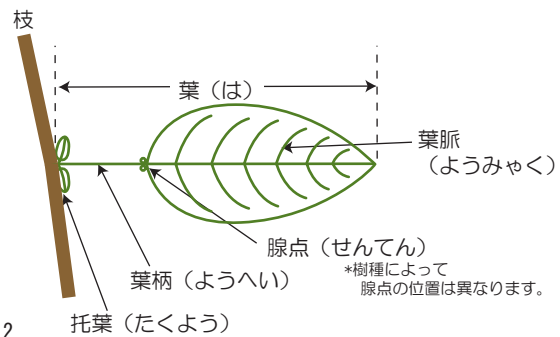
実から調べる

写真一覧(p. 11～p. 14)から、調べようとしている樹木に似た実を見つけ、そこに記載されているページの解説をご覧ください。

葉の見方

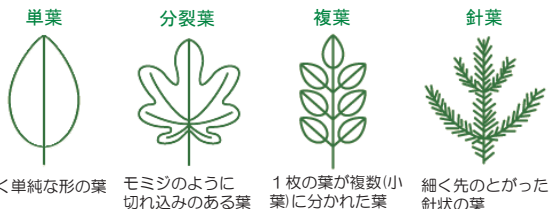
葉の部位の名前

葉には部位ごとに名前がついています。



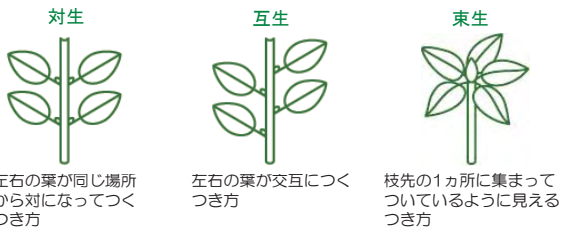
葉の形

樹木の葉には、さまざまな形があります。冬芽の位置を見ると、どれが1枚の葉なのかがわかります。冬芽のある場所が、1枚の葉の「付け根」になります。



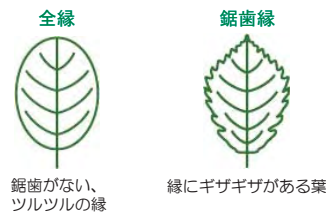
葉のつき方

葉のつき方も重要な視点です。枝に葉がどのようについているか、よく観察しましょう。



葉の縁

葉の縁も樹木の特徴を表す重要なポイントです。葉の縁のギザギザは鋸歯(きょし)といって、のこぎりの歯にたとえられています。



葉から調べる

単葉の木



互生・全縁



アカメガシワ p. 36



ミズキ p. 46



コジイ p. 59



クスノキ p. 63



ヤブニッケイ p. 64



シロダモ p. 65



サカキ p. 67



ソヨゴ p. 72



クロガネモチ p. 73



ナワシログミ p. 74

互生・鋸歯縁



オオバヤシヤブシ p. 17



アカシデ p. 18



イヌシデ p. 19



クリ p. 20



クヌギ p. 21



コナラ p. 22



アベマキ p. 23



ムクノキ p. 24

互生・鋸歯縁



エノキ p. 25



ケヤキ p. 26



カマツカ p. 28



ウワミズザクラ p. 29



ヤマザクラ p. 30



カスミザクラ p. 31



ウラジロノキ p. 34



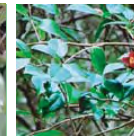
エゴノキ p. 52



アラカシ p. 60



ウラジログシ p. 62



ヤブツバキ p. 66



ヒサカキ p. 68



カナメモチ p. 69



ナナミノキ p. 70

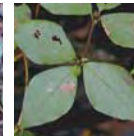


イヌツゲ p. 71

束生・全縁



モチツツジ p. 50



コバノミツツツジ p. 51



ヤマモモ p. 58

II

II
検索

II

II
検索

単葉の木



束生・鋸歯縁



リョウブ p. 49



ウバメガシ p. 61



アセビ p. 76

II

対生・全縁



ヤマボウシ p. 45



クマノミズキ p. 47



イボタノキ p. 53



ネズミモチ p. 77

検索



トウネズミモチ p. 78

対生・鋸歯縁



コマユミ p. 43



マユミ p. 44



ムラサキシキブ p. 54



ガmazumi p. 55



コバノガmazumi p. 56



ミヤガmazumi p. 57

分裂葉の木



イロハモミジ p. 42



カクレミノ p. 75

複葉の木



ミツバアケビ p. 27



ノイバラ p. 32



クサイチゴ p. 33



ニセアカシア p. 35



イサザンショウ p. 37



ニワウルシ p. 38



ヌルデ p. 39



ハゼノキ p. 40



ヤマウルシ p. 41



タラノキ p. 48



フジ p. 82



ソタウルシ p. 83

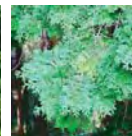
針葉の木



アカマツ p. 79



スギ p. 80



ヒノキ p. 81

II

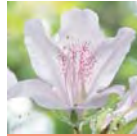
検索

花から調べる

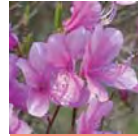
赤い花が咲く木



イロハモミジ p. 42



モチツツジ p. 50



コバノミツバツツジ p. 51

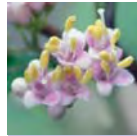


ヤブツバキ p. 66

紫の花が咲く木



ミツバアケビ p. 27



ムラサキシキブ p. 54



ナナミノキ p. 70



フジ p. 82

白い花が咲く木



カマツカ p. 28



ウワミザクラ p. 29



ヤマザクラ p. 30



カスミザクラ p. 31



ノイバラ p. 32



クサイテゴ p. 33



ウラジロノキ p. 34



ニセアカシア p. 35



イヌザンショウ p. 37



ヌルデ p. 39



ヤマボウシ p. 45



ミズキ p. 46

II
検索

白い花が咲く木



クマノミズキ p. 47



タラノキ p. 48



リョウブ p. 49



エゴノキ p. 52



イボタノキ p. 53



ガズミ p. 55



コバノガズミ p. 56



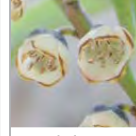
ミヤマガズミ p. 57



クスノキ p. 63



サカキ p. 67



ヒサカキ p. 68



カナメモチ p. 69



イヌツゲ p. 71



ソヨゴ p. 72



クロガネモチ p. 73



ナワシログミ p. 74



アセビ p. 76



ネズモチ p. 77



トウネズモチ p. 78

茶色・黄色・緑の花が咲く木



オオバヤシャブシ p. 17



アカシデ p. 18



イヌシデ p. 19



クリ p. 20

II
検索

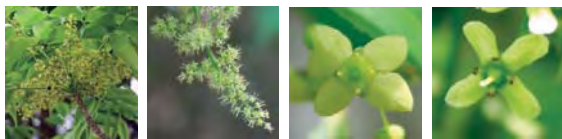
茶色・黄色・緑の花が咲く木



クヌギ p. 21 コナラ p. 22 アベマキ p. 23 ムクノキ p. 24



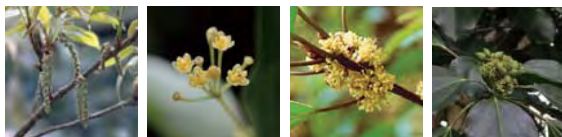
エノキ p. 25 ケヤキ p. 26 アカメガシワ p. 36 ニワウルシ p. 38



ハゼノキ p. 40 ヤマウルシ p. 41 コマユミ p. 43 マユミ p. 44



ヤマモモ p. 58 コジイ p. 59 アラカシ p. 60 ウバメガシ p. 61



ウラジログシ p. 62 ヤブニツケイ p. 64 シロダモ p. 65 カクレミノ p. 75



アカマツ p. 79 スギ p. 80 ヒノキ p. 81 ツタウルシ p. 83

II
検
索

実から調べる

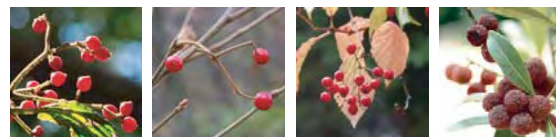
赤い実がつく木



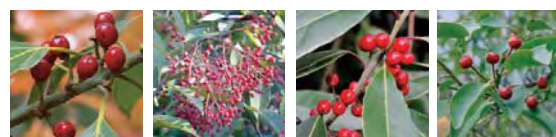
エノキ p. 25 カマツカ p. 28 ノイバラ p. 32 クサイチゴ p. 33



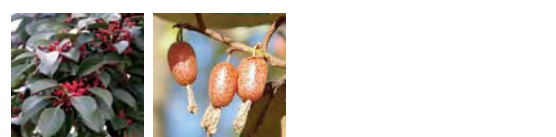
ウラジロノキ p. 34 コマユミ p. 43 マユミ p. 44 ヤマボウシ p. 45



ガズミ p. 55 コバノガズミ p. 56 ミヤマガズミ p. 57 ヤマモモ p. 58



シロダモ p. 65 カナメモチ p. 69 ナナミノキ p. 70 ソヨゴ p. 72



クロガネモチ p. 73 ナワシログミ p. 74

II
検
索

緑の実がつく木



イヌザンショウ p. 37



モチツツジ p. 50



コバノミツバツツジ p. 51



エゴノキ p. 52

II
検索

茶色の実がつく木



オオバヤシャブシ p. 17



アカシデ p. 18



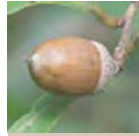
イヌシデ p. 19



クリ p. 20



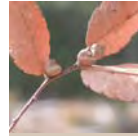
クヌギ p. 21



コナラ p. 22



アベマキ p. 23



ケヤキ p. 26



ニセアカシア p. 35



アカメガシワ p. 36



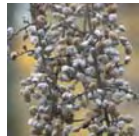
ニワウルシ p. 38



ヌルデ p. 39



ハゼノキ p. 40



ヤマウルシ p. 41

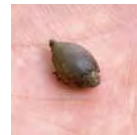


イロハモミジ p. 42



リョウブ p. 49

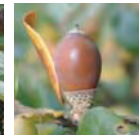
茶色の実がつく木



コジイ p. 59



アラカシ p. 60



ウバメガシ p. 61



ウラジログシ p. 62



ヤブツバキ p. 66



アセビ p. 76



アカマツ p. 79



スギ p. 80



ヒノキ P. 81



フジ P. 82



ツタウルシ P. 83

注) フジは熟す前の実の写真です。

黒・紫の実がつく木



ムクノキ P. 24



ミツバアケビ P. 27



ウワミズザクラ P. 29



ヤマザクラ P. 30



カスミザクラ P. 31



ミズキ P. 46



クマノミズキ P. 47



タラノキ P. 48

注) ウワミズザクラ、ヤマザクラ、カスミザクラは熟す前の実の写真です。

II
検索

黒・紫の実がつく木



イボタノキ P. 53



ムラサキシキブ P. 54



クスノキ P. 63



ヤブニッケイ P. 64



サカキ P. 67



ヒサカキ P. 68



イヌツゲ P. 71



カクレミノ P. 75



ネズミモチ P. 77



トウネズミモチ P. 78

II
検
索

III. 解説

解説ページの見方

アイコン表示
アイコン解説 P.16

名称・分類

オオバヤシャブシ カバノキ科



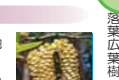
樹皮

写真

名前を調べる際に、
参考となる葉の特徴
を示しています。
*のついた写真は清水孝之氏撮影

オオバヤシャブシの特徴

菌類と共生するため、養分の乏しい土地でも比較的成長が早いとされています。葉脈はほぼ平行で12対から16対で鋭い鋸歯があります。表面でへこんだ葉脈は裏側に浮き出ます。実はうすらの卵ぐらいの大きさで、ふつう1個ずつついています。実が1個から3個ずつつくヤシャブシと区別できます。また、オオバヤシャブシの実は上向きにつきます。



花



果

解説文

樹木の特徴や六甲山での分布範囲、生育環境などを掲載しています。

六甲山での分布

主に谷筋や崩れやすい斜面に植えられて

生育環境や植生との関係

オオバヤシャブシ群落を代表する樹木です。他の群落ではほとんど見られません。

III
解
説

アイコン解説

樹高

高木

高木

低木

低木

葉の形



単葉



複葉



分裂葉



針葉

葉のつき方



対生



互生



束生

葉の縁



全縁



鋸歯縁

花の色



赤い花が咲く



紫の花が咲く



白い花が咲く



茶色・黄色・
緑の花が咲く

実の色



赤い実がつく



緑の実がつく



茶色の実がつく



黒・紫の実
がつく

その他

外来

外国産の木

危険

触ると危険な木

III 解説

オオバヤシャブシ

カバノキ科



葉脈は12~16対

実は1個

0 2cm

葉



樹皮

III 解説

落葉広葉樹

オオバヤシャブシの特徴

菌類と共生するため、養分の乏しい土地でも比較的成長が早いとされています。葉脈はほぼ平行で12対から16対で鋭い鋸歯があります。表面でへこんだ葉脈は裏側に浮き出ます。実はうずらの卵ぐらいの大きさで、ふつう1個ずつついていきます。実が1個から3個ずつつくヤシャブシと区別できます。また、オオバヤシャブシの実は上向きにつきます。



花



実

六甲山での分布

主に谷筋や崩れやすい斜面に植えられています。

生育環境や植生との関係

オオバヤシャブシ群落を代表する樹木です。他の群落ではほとんど見られません。

アカシデ カバノキ科



アカシデの特徴

葉は卵形で細かい鋸歯があり、先が細く伸びます。樹皮は灰白色で大きくなると縦に裂け目が入ります。秋には美しく黄葉します。

よく似ているイヌシデとは葉の形で見わけることができます。アカシデは葉の先が尾のように細く伸びます。イヌシデは先があまり伸びず、葉の両面に毛がたくさん生えています。



花*



実

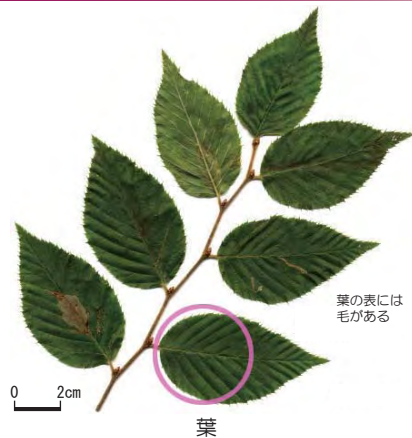
六甲山での分布

主に六甲山系の中腹以上の谷筋や急傾斜地を中心に分布しています。

生育環境や植生との関係

ブナ林、コナラ林、ウラシロガシ林などで見られます。

イヌシデ カバノキ科



イヌシデの特徴

イヌシデの名前は、アカシデやクマシデといったシデ類の中では劣る、シデではない(否)ということに由来しているといわれています。

葉の両面や葉柄には毛がたくさん生えています。葉の付け根で、かるく枝が折れ曲がります。

よく似たアカシデ、クマシデには葉に毛がないので見分けることができます。



花*



実

六甲山での分布

主に六甲山系の中腹以上に分布しています。

生育環境や植生との関係

アカマツ林、コナラ林などで見られます。

Ⅲ

解説

落葉広葉樹

Ⅲ

解説

落葉広葉樹

クリ ブナ科



0 2cm

葉

クリの特徴

栗のなる木です。実の大きさは、栽培品種に比べ小ぶりです。6月から7月に掛けて、淡いクリーム色のしっぽのような形の花が咲きます。花の匂いは強くて特徴的です。葉は長い楕円形で、葉の縁の鋸歯は先が尖っています。アベマキ、クヌギの葉の形と似ていますが、クリにだけ、鋸歯にまで葉緑素があり、緑色をしています。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

二次林を中心によく見られます。尾根などの乾燥した場所にも生育しています。

クヌギ ブナ科



0 2cm

葉



樹皮

クヌギの特徴

里山の代表種です。クワガタムシ、カブトムシ、オオムラサキなどの昆虫が樹液を吸いにやってきます。まっすぐに伸びる幹、細かく割れる樹皮が特徴的です。葉は、細長い楕円形で、縁には柔らかいトゲ状の鋸歯が長く伸びています。クヌギ、アベマキ、クリの3種は葉の形がよく似ています。



花



実

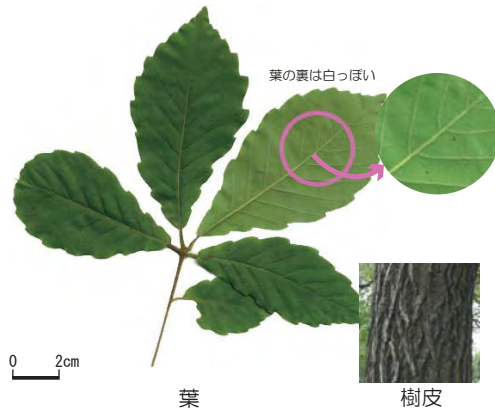
六甲山での分布

植栽に由来するため、局所的に群生しています。

生育環境や植生との関係

一般に、クヌギはコナラに比べてより湿潤な場所を好み、山麓や斜面の下部に見られます。

コナラ フナ科



コナラの特徴

葉は真ん中より先の方で、最も幅が広くなります。波を打つような鋸歯、平行に走る明瞭な葉脈、裏面の白っぽさが特徴的です。樹皮は、若く細いときはツルツルしていますが、生長にともない、縦に裂け目が入りゴツゴツしてきます。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

山麓や斜面下部の湿潤な場所では良好に生育し、優占林をつくります。

アベマキ フナ科



アベマキの特徴

大きく丸いドングリを作り、9月から10月頃、枝からドングリが落ちます。深く割れ、ゴツゴツした樹皮になるのが大きな特徴です。これはコルク層が発達したものです。葉の縁の鋸歯は細く伸びます。

よく似たクヌギやクリの葉の裏には毛はありませんが、アベマキは葉の裏に短い毛が生え、白く見えるので容易に区別できます。



花*



実

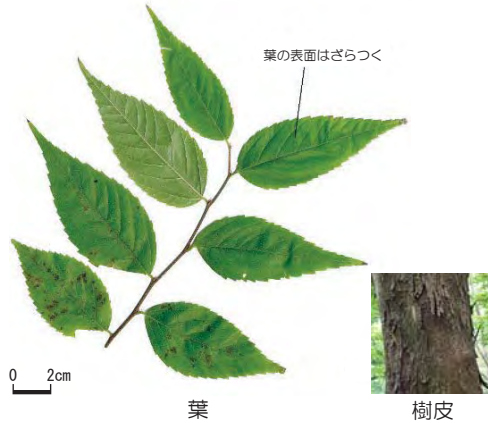
六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。特に海拔が400mよりも低い場所に多く生育しています。

生育環境や植生との関係

アベマキはコナラやクヌギよりもより乾燥に耐えます。そのため尾根や斜面上部などで見られます。

ムクノキ ニレ科



ムクノキの特徴

葉の表面がざらつくので、漆器の木地や細工物をみがくやすりとして利用されていました。

10月ごろに黒い実が熟します。樹形はまっすぐに伸び、樹皮には細い縦縞が見られます。葉の両面ともに短く硬い毛が生えており、触るとザラザラします。

ムクノキは樹皮に縦縞が入るため、よく似たエノキやケヤキと区別できます。



花*



実

六甲山での分布

表六甲の海拔の低い地域を中心に分布しています。

生育環境や植生との関係

土壌が崩れやすい谷部や山麓の斜面などを中心に生育しています。エノキやクマノミズキとともに谷沿いでよく見られ、エノキ林の指標種となります。

エノキ ニレ科



エノキの特徴

名前の由来は、器具の柄に使われるため「柄の木」、よく燃えるので「燃え木」がなまったなど、多説あります。

実は多くの鳥に好まれます。葉の鋸歯は先端の方にしかなく、葉の基部は左右非対称です。エノキの樹皮は、白っぽく横縞があってザラザラしているのが特徴です。



花*



実

六甲山での分布

六甲山系の谷部を中心に分布しています。

生育環境や植生との関係

エノキ林(エノキ-ムクノキ群集)の指標となる落葉高木です。ムクノキやクマノミズキなどと一緒に、谷沿いなどの不安定な立地に生育しています。

ケヤキ ニレ科



葉の縁には
はっきりした
鋸歯がある



葉

ケヤキの特徴

ケヤキという名は、「けやけき木（とくに際立つ木）」に由来するといわれています。ほうきを逆さに立てたような樹形が特徴です。

葉の縁は、独特の端正な鋸歯がみられ、丸みをおびています。

老木になると樹皮がウロコ状に剥がれ、デコボコします。エノキと似ていますがエノキの葉の鋸歯は、先端の方にしかないことで区別できます。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に点在して分布しています。

生育環境や植生との関係

エノキームクノキ群集で見られます。

ミツバアケビ アケビ科



葉

ミツバアケビの特徴

名前のおり小葉が5枚のアケビに対して3枚です。果実で知られるアケビ・ミツバアケビは、花もおすすめです。よく見ると花は、違った形をした2種類の花からなっています。数の少ないタイプが雌花、数の多いタイプのものが雄花です。10月頃、紫色の大きな果実がなります。この中に収まっている白くて甘い果肉は食べることができます。



花



実*

六甲山での分布

広く、照葉樹林帯～ブナ帯にかけての林縁の植生を指標する植物です。六甲山全域に分布しています。

生育環境や植生との関係

照葉樹林帯からブナ帯まで広い植生帯で普通に見られます。林縁部のような明るい環境に生育しています。

III

解説

落葉広葉樹

III

解説

落葉広葉樹

カマツカ バラ科



葉の縁は細かい鋸歯

葉

Ⅲ
解説

落葉広葉樹

カマツカの特徴

カマツカは材が硬く丈夫なため、鎌や鋸の柄に使われたことが名前の由来です。また、別名はウシゴロシといい、材を牛の鼻輪に使うことに由来しています。

花は4月から6月にかけて咲きます。葉の縁に細かい鋸歯があるのが特徴的です。鋸歯は先端の方を向いています。葉の裏は薄い緑色で光沢があり、葉脈が網目状に細かく入っています。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

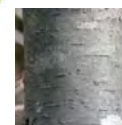
落葉広葉樹林によく見られます。

ウワミスザクラ バラ科



葉の縁に腺点がある

葉



樹皮

Ⅲ
解説

落葉広葉樹

ウワミスザクラの特徴

古来、この木の材の上面に溝を掘り、亀甲占いに使われていたそうで、「上溝桜（うわみぞざくら）」のなまったものが名前の由来といわれています。

4月下旬から5月上旬に小さな花が房状に集まって咲き、樹冠いっぱいに広がります。実は秋になると黄色から赤、そして黒く熟します。葉脈は表から見ると、くぼんで見えます。



花



実*

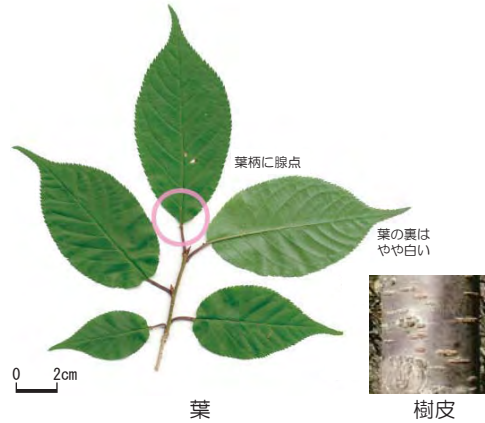
六甲山での分布

六甲山系の全域に点在して分布しています。

生育環境や植生との関係

エノキームクノキ群集で見られます。

ヤマザクラ バラ科



ヤマザクラの特徴

4月中旬頃に少しピンクがかった白い花をつけます。花をつけるのと同時に出新しい葉は、赤みを帯びています。葉の裏側はやや白く、葉の葉柄に腺点があります。また、葉柄には毛が生えていないことも特徴です。実は秋になると赤から次第に黒く熟します。



花



実

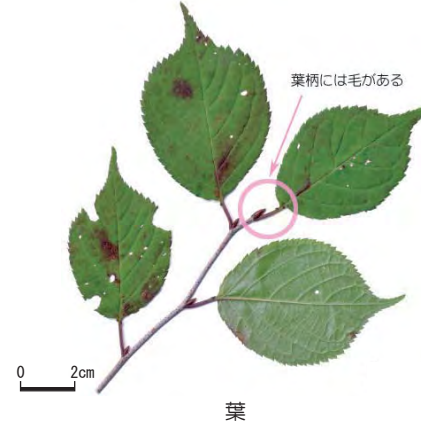
六甲山での分布

六甲山系の全域に点在して分布しています。

生育環境や植生との関係

主に二次林で見られます。

カスミザクラ バラ科



カスミザクラの特徴

春先の山で点々と花を咲かせる様子が、霞がかったように見えることから、「カスミザクラ（霞桜）」という名前がつけました。

葉は花と同時に出て黄緑色で、葉の裏は少し光沢があります。葉の葉柄には1対の腺点があります。また、葉柄に毛が生えています。

カスミザクラの花は普通ヤマザクラよりも1、2週間程度遅れて咲き始めます。



花



実*

六甲山での分布

六甲山系の全域に点在して分布しています。特に、急傾斜地や谷沿いなどにも見られます。

生育環境や植生との関係

主に落葉広葉樹林で見られます。

ノイバラ バラ科



葉 *

ノイバラの特徴

草原や明るい林縁に多く生育しています。5月から6月頃に白い花が房のように固まって咲きます。花は、たくさんのおしべが特徴です。緑色の幹は細く、枝にはトゲがあり、ほかの植物に寄りかかるように伸びていきます。葉の表面には光沢がなく、托葉はくし状に裂けています。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

開けた林縁など明るく乾燥した場所によく見られ、藪を作ります。

クサイチゴ バラ科



葉*

クサイチゴの特徴

背丈が低く草のように地面を這うのでこの名前がついたと言われています。3月から5月に地下茎から新しい茎を出し、白い花を咲かせます。実は5月末から6月初旬にかけて赤く熟し、食べられます。葉は、下の方は5枚の小葉からなる複葉で、花が咲く上の葉は3枚の小葉となります。葉の縁には細かい鋸歯があります。茎には軟らかい毛が密生し、小さいトゲがまばらにあります。



花



実*

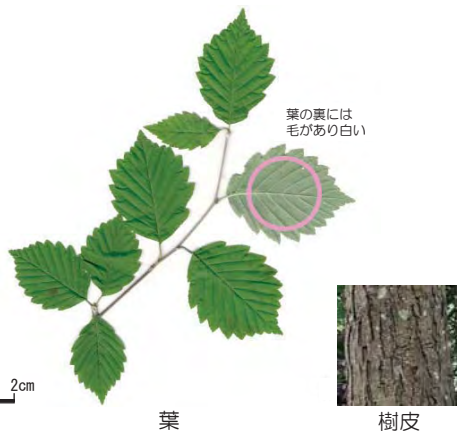
六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

陽のよく当たる林床や林縁、伐採跡地や草地でよく見られます。

ウラジロノキ バラ科



ウラジロノキの特徴

名前のお通り、葉の裏に絹のような綿毛が生えて白っぽい色をしているのが特徴です。

葉の縁は大きい鋸歯にさらに細かい鋸歯が入ります。5月頃にきれいな白い花をつけます。

よく似たアズキナシの葉の裏には毛がなく緑色なので区別できます。



六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

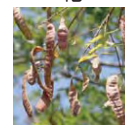
落葉広葉樹林やアカマツ林でよく見られます。

ニセアカシア マメ科



ニセアカシアの特徴

エンジュに似ていてトゲがあるため「ハリエンジュ」ともいわれます。明治初期に導入された北米原産の外来植物です。鳥の羽のように並んだ葉のつけ根には、一對のトゲがあります。初夏に白い花を咲かせ、強い香りがします。ニセアカシアの小葉の先は円いかややへこんでいます。種子(豆)が入っている鞘は、平たく波打っています。



六甲山での分布

表六甲の海拔450m以下に、集中的に分布しています。

生育環境や植生との関係

やせた土地でもよく生育します。林床にはネザサが密集して生育していることが多く、生物が住みにくい環境となっています。

Ⅲ

解説

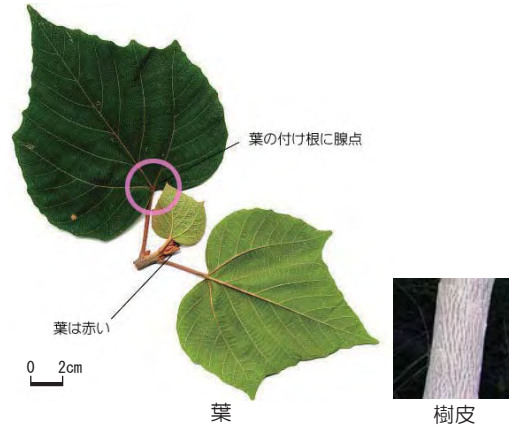
落葉広葉樹

Ⅲ

解説

落葉広葉樹

アカメガシワ トウダイグサ科



アカメガシワの特徴

新芽が赤いこと、カシワのように葉を食べ物を乗せる皿替わりにしたことから赤芽柏（あかめがしわ）と呼ばれます。葉のつけ根に一对の腺点があり、アリなどが訪れます。これは腺点から蜜が出ているためです。アカメガシワは、伐採やがけ崩れなどの後の明るくなった環境にいち早く生えます。こうした植物は、先駆性植物やパイオニア植物といひアカメガシワはその代表です。



花



実

六甲山での分布

六甲山では標高650m以下の地域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

伐採跡地などに成立するタラノキクサイチゴ群集の主要構成種です。また林道や登山道沿いなどの明るい場所を生育地としています。

イヌザンショウ ミカン科



イヌザンショウの特徴

サンショウとそっくりなので、思わずちぎって持って帰る人もいるのではないのでしょうか。サンショウに似てるけれど香りが悪いことから「イヌザンショウ（犬山椒）」と呼ばれます。植物の名前にはよくこの「イヌ」という言葉がついています。植物和名の場合「イヌ」とは、「否（いな）、違う」とか「役に立たない」などの意味あいがあるそうです。



花



実

六甲山での分布

六甲山全域の伐採跡地などに分布しています。

生育環境や植生との関係

伐採跡（タラノキクサイチゴ群集）などに多く、ほかのミカン科のカラスザンショウやフユザンショウ、サンショウと共に生えています。

ニワウルシ

ニガキ科



ニワウルシの特徴

庭木や街路樹として明治時代初期に中国から導入された外来植物です。ウルシに似ていて、庭に植えられることから「ニワウルシ（庭漆）」の名がつけられました。

10対を超えるたくさんの小葉をつけた羽状複葉が特徴で、ほかのウルシ類と区別できます。小葉の基部の縁に腺点があります。



花



実

六甲山での分布

表六甲を中心に、広く分布しています。

生育環境や植生との関係

表六甲の林縁や伐採跡でよく見られます。

ヌルデ

ウルシ科



ヌルデの特徴

幹から採れる白い液を器に塗ったことがヌルデの名の由来といわれます。ウルシの仲間なので、肌の弱い人はかぶれることもあります。

ヌルデは五倍子（ごばいし、または附子：ふし）と呼ばれる大きな虫こぶをつくります。これはお歯黒や草木染めなどに利用されてきました。果実には塩分が多く、様々な種類の鳥が好んで食べています。



花



実

六甲山での分布

海拔50～700mまでの広い地域で見ることが出来ます。

生育環境や植生との関係

アカマツ林やコナラ林の林縁といった明るい場所に生育します。伐採地などに生育する代表的な先駆性植物の一つです。

ハゼノキ ウルシ科



ハゼの特徴

果実から上質のロウがとれ、和ろうそくの原料になります。別名のロウノキは、そこからついた名です。六甲山系では、緑化樹として明治時代から利用されてきた記録があります。同じ仲間のウルシやヤマハゼも複葉が枝先に束生して似ていますが、毛が葉の両面にあるのがヤマハゼ、脈上のみなのがヤマウルシで、ハゼノキにはほとんど生えていないことで区別できます。



六甲山での分布

表六甲ではあちこちで見かけますが、裏六甲にはほとんど分布していません。

生育環境や植生との関係

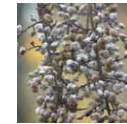
ハイキング道沿いの林縁や二次林内、伐採跡の藪にもよく見られます。特に、ウバメガシ群落やオオバヤシヤブシ群落で多く見られます。

ヤマウルシ ウルシ科



ヤマウルシの特徴

名前は山地性のウルシの意味です。ウルシの仲間は樹液でかぶれることがあります。葉は円く先はとがり、若いときは鋸歯があります。ウルシ類はみな鳥の羽のように葉が枝先に集まってつきます。ウルシ類は葉裏の毛の生え方で区別します。毛が葉の両面にあるのがヤマハゼ、葉脈上のみに見えるのがヤマウルシです。



六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

明るい場所に多く見られます。特に、アカマツ林などの落葉広葉樹林を中心に分布しています。

イロハモミジ カエデ科



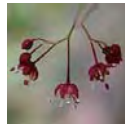
葉の先は尾状に長く伸びる



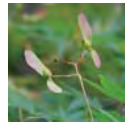
葉

イロハモミジの特徴

イロハモミジの名前の由来は、子どもたちが切れ込んだ葉の一片一片を「いろはにほへと」と数えたことによります。葉の先は帯状に長く伸び、鋸歯はオオモミジよりも荒く不揃いです。秋にはつばさのついた実が風によって回転しながら飛んでいきます。六甲山系では11月から12月にかけて紅葉を楽しむことができます。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

渓谷や谷筋斜面の、空気中の湿度が高い涼しげな場所を好みます。エノキ林が成立する場所によく見られます。

コマユミ ニシキギ科



葉の縁には細かい鋸歯がある



枝は緑色

葉

コマユミの特徴

「小さいマユミ」が名前の由来です。枝は緑色で、葉柄がほとんどありません。秋には、実や葉があざやかな紅色に色づきます。庭木で馴染みのある「ニシキギ」の野生種です。よく似たマユミ、ツリバナとは葉柄の長さで区別します。コマユミには葉柄がほとんどないのに対し、マユミ、ツリバナには、はっきりと分かる葉柄があります。



花



実*

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

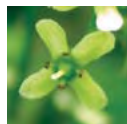
コナラーアベマキ群集、アカマツモチツツジ群集など明るい落葉広葉樹林を中心に分布しています。常緑広葉樹林で見かけることはほとんどありません。

マユミ ニシキギ科



マユミの特徴

マユミ（真弓）の名前の由来は、この樹木で弓を作ったことによります。枝の先端は緑色です。葉は細長く、先のとがった楕円形で、はっきりと分かる葉柄があります。秋に葉や実が赤く色づいて美しい木です。よく似たコマユミ、ツリバナとは、葉柄の長さで区別できます。マユミは0.5～2cm、ツリバナは0.3～1cm、コマユミにはほとんどありません。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に点在して分布しています。

生育環境や植生との関係

エノキやニセアカシアの多い林に見られます。

ヤマボウシ ミズキ科



ヤマボウシの特徴

葉の縁と平行に湾曲して伸びる葉脈が特徴です。梅雨時期に白い花が咲き、秋には直径1cmほどの実が赤く熟します。実は甘くて美味です。よく似たハナミズキは、アメリカ大陸原産の別種で、葉の縁と平行に湾曲して伸びる葉脈が特徴です。他にもミズキは葉が互生であること、クマノミズキは葉が細長く、葉柄が長いことから区別できます。



花



実*

六甲山での分布

裏六甲や表六甲の海拔300m以上の地域に点在して分布しています。

生育環境や植生との関係

落葉広葉樹林で見られます。

III
解説

落葉広葉樹

III
解説

落葉広葉樹

ミズキ ミズキ科



葉*

III
解説

落葉広葉樹

ミズキの特徴

5月から6月頃に小さい花を密につけます。実は6月から10月に赤色から黒紫色に熟します。葉は互生で枝先に集中してつき、葉の表面はやや光沢があり、裏面は白緑色です。縁は全縁で大きく波打ちます。

よく似たクマノミズキは葉が対生で、花期が1カ月ほど遅いこと、ヤマボウシは葉が円く、葉柄が短いことから区別できます。



花*



実

六甲山での分布

六甲山系では中腹以上の谷筋に分布しています。

生育環境や植生との関係

丘陵帯から山地帯のやや湿った所によく見られます。

クマノミズキ ミズキ科



葉

III
解説

落葉広葉樹

クマノミズキの特徴

名前は三重県熊野地方に生育するミズキという意味からきています。梅雨頃、白く小さな花が集まって咲きます。10月頃、花の軸は実が熟していくとともに赤くなります。葉は対生で、葉先は尾状に伸びます。クマノミズキの葉が対生するのに対し、よく似たミズキの葉は互生します。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

谷沿いの崩れやすいところに生える高木です。エノキ林でよく見られる樹木です。

タラノキ ウコギ科



葉

樹皮

Ⅲ
解説

落葉広葉樹

タラノキの特徴

春先に、山菜として新芽を天ぷらにして食べることができます。幹や枝、そして葉にまで全体的に鋭いトゲの多いことが特徴です。葉は鳥の羽のように広がります。夏には小さな白い花を咲かせ、放射状に開いています。秋には黒い実がなります。



花



実*

六甲山での分布

明るいハイキング道沿いでよく見つけることができます。

生育環境や植生との関係

伐採跡の藪や林縁などの明るい場所でよく見かけ、タラノキークサイチゴ群集の指標種となります。

リョウブ リョウブ科



葉は枝先に集まってつく

葉



樹皮

Ⅲ
解説

落葉広葉樹

リョウブの特徴

夏に小さな花が穂のように多数集まって咲きます。古い樹皮がはがれ落ちてできる、茶褐色と灰褐色のまだら模様の樹皮が特徴です。樹皮はなめらか、葉はザラザラです。



花



実

六甲山での分布

明るい林に広く分布しています。谷筋よりは、尾根筋に多い樹木です。

生育環境や植生との関係

落葉の自然林（ブナ-シラキ群集）から二次林まで明るい林に広く見られます。

モチツツジ ツツジ科



葉

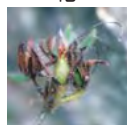
モチツツジの特徴

新芽や花のがくなどが「とりもち」のように粘るため、このような名前と呼ばれます。

5月頃から晩秋にかけて薄紫色の甘い香りの花を咲かせます。枝や葉、がくはそれぞれ3cm程度で、毛がたくさん生えており、触ると粘ります。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

アカマツ林やコナラ林の林内や林縁で多く見られます。

コバノミツバツツジ ツツジ科



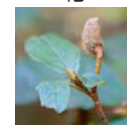
葉

コバノミツバツツジの特徴

春、木々が芽吹く頃、濃いピンク色の花を咲かせます。春先に真っ先に咲くツツジです。小さな3枚の葉が枝先にまとまってつきます。枝は三つ又に分かれるように、上方に伸びています。葉の裏の葉脈は網目のようにくっきり見えます。葉の形はひし形に近い楕円形です。



花



実

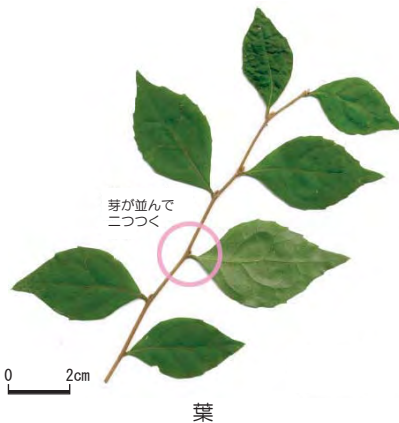
六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。斜面上方の乾燥気味の所で多く見られます。

生育環境や植生との関係

ブナ林やアカマツ林、コナラ林など落葉樹が多い明るい林に見られます。

エゴノキ エゴノキ科



Ⅲ
解説

落葉広葉樹

エゴノキの特徴

名前の由来は、実がえぐいことによりまず。実の皮にはエゴサポニンという物質が含まれ、石けんの代用としたほか、魚毒としての麻酔効果を利用して魚とりに用いました。

初夏には多数の白い花が枝から吊り下がります。葉のつけ根には小さい綿棒のような冬芽がついていることも特徴の一つです。葉のつけ根で枝がジグザグと折れ曲がります。



花



実*

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。特に谷筋によく分布しています。

生育環境や植生との関係

自然林、二次林、人工林など広範囲に生育する樹木です。

イボタノキ モクセイ科



樹皮

Ⅲ
解説

落葉広葉樹

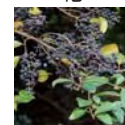
イボタノキの特徴

林縁の植生を指標する、明るい所に多い植物です。樹皮には、カイガラムシの一種、イボタロウムシがつき、この虫の分泌する蟻（ロウ）が、枝をびっしりと白くおおうことがあります。

小さな葉が、枝の両側に向かい合って行儀よく並んでいます。その葉の大きさが、枝先に向かうほど大きくなっていくのが特徴です。



花



実*

六甲山での分布

ハイキング道沿いや、谷筋に近い明るい林内でよく見かけます。

生育環境や植生との関係

夏緑樹の優占する明るい樹林に生えています。

ムラサキシキブ クマツヅラ科



ムラサキシキブの特徴

名前は、美しい紫色の実を平安時代の才女、紫式部にたとえたことに由来すると言われています。初夏に紫色の花が咲き、秋になると美しい紫色の実をつけます。葉は細長く対生し、細かい鋸歯があります。葉はややザラザラしています。



花



実

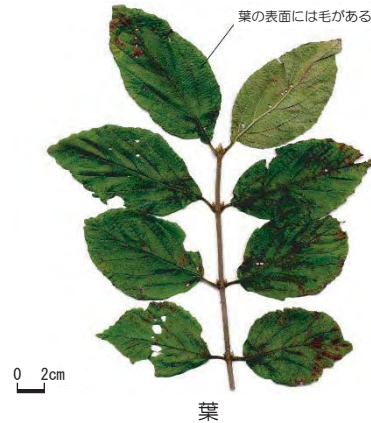
六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

コナラ林、エノキ林を中心に広く見られます。

ガマズミ スイカズラ科



ガマズミの特徴

5月から6月に小さな白い花をたくさん咲かせ、10月頃に美しい赤い実をつけます。熟した果実は甘酸っぱく、鳥たちの好物です。葉の大きさや形にはばらつきが多く、円形に近い葉が多く見られます。葉の基部がくさび形のものも多くみられます。鋸歯はとがりがにぶく、あまりはっきりとはしていません。両面ともに荒い毛があり、触ると少しザラザラします。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の二次林を中心に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

落葉二次林のような明るい林でよく見られる樹木です。

コバノガマズミ スイカズラ科



葉

コバノガマズミの特徴

5月頃に白い小さな花をたくさん咲かせます。秋には紅葉し、赤い実をつけます。葉はガマズミの仲間ではもっとも小さく、葉柄が短いのが特徴です。葉はピロード状のフワフワとした手触りのため、よく似たガマズミ、オトコヨウソメ、ミヤマガマズミと区別がつかず。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

落葉広葉樹林でよく見られます。林内でも林縁でも見られます。

ミヤマガマズミ スイカズラ科



葉

ミヤマガマズミの特徴

ミヤマガマズミ（深山（みやま）がまずみ）の名前に似合わず、六甲山をはじめ低山の里山でも比較的良好に見かける樹木です。

5月頃に小さな白い花を咲かせ、秋には赤く小さな実をたくさんつけます。葉の表面は毛がなく光沢があります。葉の先端は鋭くとがっているものが多く、縁は粗い鋸歯が目立ちます。また、葉柄は赤みを帯び、長毛が目立ちます。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

コナラ林、アカマツ林などの二次林によく見られます。

ヤマモモ

ヤマモモ科



葉は枝先に集まってつく

0 2cm

葉

ヤマモモの特徴

名前は実が食べられることに由来しますが、モモとはあまり似ていません。雄と雌は異なる株で、雌株は初夏に赤く熟した実をたくさん枝先につけ、実は生食のほか果実酒などに利用されます。



花



実

六甲山での分布

鉢伏山から鉄拐山にかけてのウバメガシ群落内に大木が生育しています。

生育環境や植生との関係

ウバメガシ群落や、海岸近くのやせて乾燥した立地の常緑広葉樹林によく見られます。

コジイ

ブナ科



0 2cm

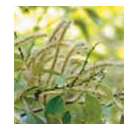
葉

鋸歯がない場合と、上の方に浅い鋸歯がある場合があります。

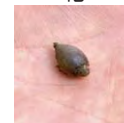
コジイの特徴

葉の裏面に金色の光沢があります。鋸歯がない場合と、上の方に浅い鋸歯がある場合とがあります。

5月の終わり頃、花が枝先でいっせいに開花すると、甘い香りが漂ってきます。よく似たスダジイとは、コジイの樹皮がほとんど割れないのに対し、スダジイの成木の樹皮が縦に深く割れることから区別できます。



花



実

六甲山での分布

コジイの大木はほとんど残っておらず、原生のなごりのある限られた場所にしか分布していません。

生育環境や植生との関係

コジイ-カナメモチ群集に見られます。

III

解説

常緑広葉樹

III

解説

常緑広葉樹

アラカシ フナ科



葉

アラカシの特徴

葉は長楕円形で先端部に粗い鋸歯があります。表面は濃い緑色で裏面は白みを帯びます。樹皮は灰黒色で、触るとザラザラします。同じカシの仲間は葉の形がよく似ています。



花*



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。海拔約650 m以上では少なくなります。

生育環境や植生との関係

各植生の構成種として広く分布する一方、群生してアラカシ林を形成します。花崗岩の崩れやすい急傾斜地にも生育しています。

ウバメガシ フナ科



葉

ウバメガシの特徴

炭の最高級品といわれる備長炭はウバメガシが原料です。葉は枝先に集まってつき、楕円形で縁が裏側に巻くように反ります。細かい葉脈まで透けて見えます。小さな鋸歯がまばらにあります。よく似たトベラは鋸歯がないことで区別できます。



花*



実*

六甲山での分布

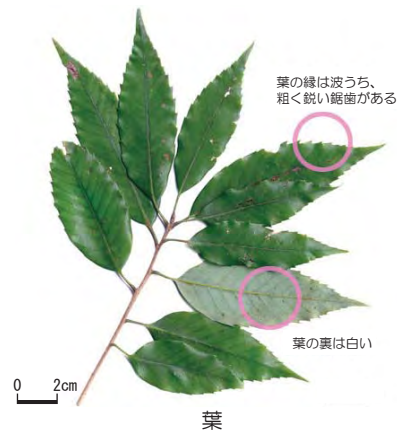
須磨の鉢伏山や鉄拐山に、広く分布しています。芦屋、岡本周辺からの登山道沿いでも見られます。

生育環境や植生との関係

潮風への耐性が高いため、海に面した山の斜面でよく見られます。

ウラジロガシ

ブナ科



葉

ウラジロガシの特徴

名前のおり葉の裏が白いことが、最大の特徴です。葉の縁は波うち、葉の先が尾状に伸びて鋭くとがっています。常緑広葉樹林を代表するカシの仲間です。



花



実*

六甲山での分布

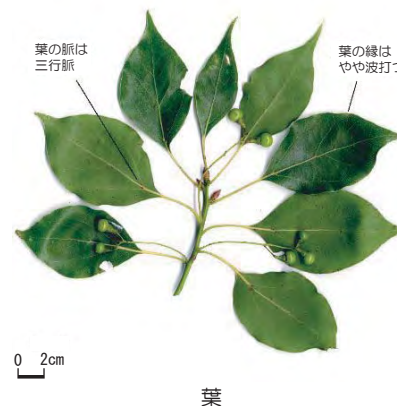
六甲山系では、中腹から山上（海拔300mから800m付近）の常緑広葉樹林に分布しています。

生育環境や植生との関係

人の手によって護られ、残されてきた自然性の高い常緑広葉樹林（ウラジロガシ-サカキ群集）で見られます。

クスノキ

クスノキ科



葉

クスノキの特徴

樟脳（しょうのう）の強い香りが特徴的です。よく目立つ3本の葉脈があり、葉脈の分岐点にふくれた小さな白い点があります。葉の縁はやや波打ちます。葉や茎を折って、樟脳（しょうのう）の香りがすればクスノキです。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の西側に広く分布しています。山麓の神社でも大木を見られます。

生育環境や植生との関係

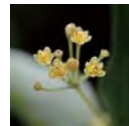
社寺林などの常緑広葉樹林で見られます。クスノキは日本には自生しておらず、六甲山系のクスノキも植栽に由来しています。

ヤブニッケイ クスノキ科



ヤブニッケイの特徴

シナモンでおなじみの「ニッケイ（肉桂）」と同じ仲間で、藪に生えるという意味で「ヤブニッケイ（藪肉桂）」という名がつけました。葉をもむとニッキやシナモンに似たよい香りがします。葉は3本の脈が目立ちます。シロダモは、葉の裏は白色で、つき方は枝先に集まってつきます。イヌガシは匂いがほとんどなく、クスノキは樟脳の匂いがします。



花*



実

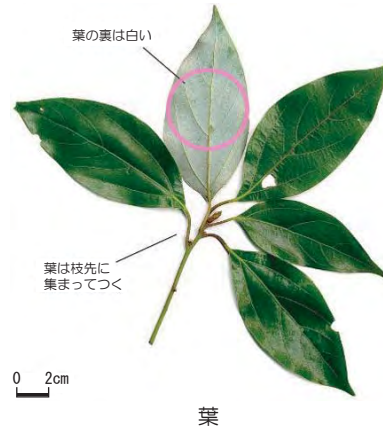
六甲山での分布

表六甲の照葉樹林帯に広く分布していますが、一方、裏六甲には点々としか分布していません。

生育環境や植生との関係

照葉樹林だけでなく二次林にまで広がっています。

シロダモ クスノキ科



シロダモの特徴

葉の裏が白いことが大きな特徴です。枝先に葉がたれ下がるように集まってついています。葉の縁は波状の鋸歯があり、葉の裏には絹のような毛があります。よく似たイヌガシやヤブニッケイは、どちらも葉の裏が白くなりません。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。表六甲に多く見られます。

生育環境や植生との関係

様々な群落で見られます。特に、ウラジロガシ林に多く生育しています。

ヤブツバキ ツバキ科

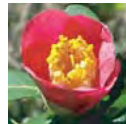


ヤブツバキの特徴

六甲山系を代表する常緑広葉樹のひとつです。

赤い花を咲かせます。葉には光沢があり、細かい鋸歯が特徴的です。また中央の葉脈が表面に少し浮き出て目立ちます。

ヒサカキやソヨゴと同様に繁茂して林床への光を遮っている場所も見られ、そのような場所では、植物の種多様性の低下が懸念されています。



花



実

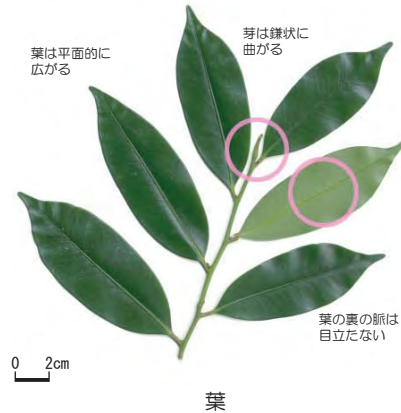
六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

ウラジロガシ林、コジイ林など常緑広葉樹林でよく見られます。

サカキ ツバキ科



サカキの特徴

いつも緑色の葉がついているため、「栄木」の意味で名付けられています。また「神」と表記されるように、枝は神事に用いられるなど、古くから人との結びつきの深い木です。

平らな葉が左右に平面的につき、葉の裏の葉脈は目立ちません。小枝の先に、鎌の刃のように細く曲がった新芽があります。



花



実

六甲山での分布

表六甲では、自然性の高い常緑樹林に分布しています。六甲山の中腹付近に分布が偏っています。

生育環境や植生との関係

コジイ林、ウラジロガシ林で見られます。

III
解説

常緑広葉樹

III
解説

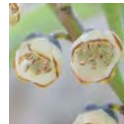
常緑広葉樹

ヒサカキ ツバキ科



ヒサカキの特徴

名前の由来は「姫サカキ」がなまったものだといわれています。葉脈が少しだけ表面に浮き出て見え、葉の先端がへこんでいます。雌株と雄株に分かれていて、雌株は秋から冬にかけて、黒い小さな実をたくさんつけます。春先の開花期には、特有の香りがします。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

二次林に広く分布しています。特にウラジロガシ林、コジイ林、ウバメガシ林内ではよく見られます。

カナメモチ バラ科



カナメモチの特徴

この木の材が鎌の柄や扇の要（かなめ）に使われており、「要に使う、モチノキに似た木」からカナメモチと呼ばれるようになったといわれています。別名アカメモチと呼ばれるように、新芽が赤く、とてもよく目立ちます。葉はかたく、鋸歯は鋭くて、逆なですると痛いぐらいです。中央の葉脈がはっきりしています。



花



実

六甲山での分布

常緑樹林帯の比較的海抜の低い所（50mから400m）に分布しています。

生育環境や植生との関係

常緑落葉樹林でよく見られます。

ナナミノキ

モチノキ科



0 2cm

葉



樹皮

ナナミノキの特徴

ナナメノキともいいます。10～11月にたくさんついた果実が赤く熟す様子から「七実の木」、また果実の先が少し曲がっているので「斜めの木」など、名前の由来についてはいろいろな説があります。樹皮からは「とりもち」が取れます。

クロバイは、葉の感じは似ていますが実が黒く熟すこと、葉柄が少し赤みを帯びることで見分けられます。



花*



実*

六甲山での分布

六甲山の山麓に点在しています。

生育環境や植生との関係

暖かい地方の照葉樹林に生育し、エノキ、ムクノキとともに生育していることが多いようです。

イヌツゲ

モチノキ科



0 2cm

葉

イヌツゲの特徴

六甲山系を代表する常緑低木です。名前の由来は、葉が層をなして次々につく様子を表す「ツゲ」に、役に立たないという意味の「イヌ」がついたものだとされています。

常緑広葉樹で、小さな葉がたくさんつのが特徴です。よく見ると、小さくてとがった鋸歯があります。モチノキ科の植物の多くが赤い実をつける中、イヌツゲは黒い実をつけます。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

様々な環境で見られます。特に、アカマツ林では、高頻度で出現します。

ソヨゴ モチノキ科



葉の縁は波うつ

葉

Ⅲ
解説

常緑広葉樹

ソヨゴの特徴

六甲山系を代表する常緑広葉樹のひとつです。葉が風に吹かれてソヨソヨと音をたてるので「ソヨゴ」と呼ばれるようになったといわれます。

葉の縁に鋸歯はなく、はっきりと波うっています。葉をもんでいると粘り気が出てきます。秋から冬にかけて、小さな赤い実がたくさんつきます。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

乾燥した尾根部や斜面上部によく見られます。様々な群落で見ることができ、特に二次林に多く生育しています。

クロガネモチ モチノキ科



葉は中央で折れ曲がる

葉柄は紫色を帯びる

葉



樹皮

Ⅲ
解説

常緑広葉樹

クロガネモチの特徴

クロガネモチは赤い実をたくさんつけ、鳥が好んで食べます。縁起の良い木として庭に植えられるほか、公園の街路樹としても植えられます。モチノキと同じように樹皮から「とりもち」を採ることができます。

モチノキは葉が厚く、日にかざしても葉脈がほとんど見えません。クロガネモチは中央の脈に沿って葉が折れ曲がっているのが特徴です。



花



実

六甲山での分布

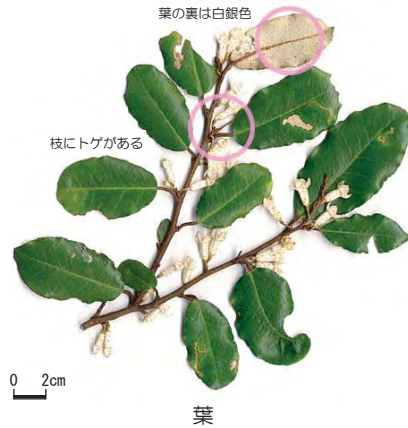
表六甲の山麓にある照葉樹林と社寺林で見られます。岡本の保久良神社には大木があります。

生育環境や植生との関係

アラカシ群落を代表とする樹木です。そのほか社寺林などに生育しています。

ナワシログミ

グミ科



III
解説

常緑広葉樹

ナワシログミの特徴

葉の裏面には小さな銀白色の毛が付き、金属光沢のように光り、斑点のような独特の模様をつくっています。大きなものは枝が垂れ下がっているか、他の木にもたれかかっています。よく似たツルグミとは、ナワシログミの葉の縁が波状になり、枝にトゲがあることで区別します。



花



実

六甲山での分布

海拔850m以下の地域に広く分布しています。特に表六甲の650m以下の地域に多く見られます。

生育環境や植生との関係

二次林から自然林まで、広く見られます。

カクレミノ

ウコギ科



III
解説

常緑広葉樹

カクレミノの特徴

葉の形もさることながら、密集してついている様子までもが身を隠す藪に似ていて、これが名前の由来だといわれています。日陰にも耐えるため、庭木や工場に植えられたりします。葉は3本の脈が目立ち、質厚く、光沢があります。花をつける枝の葉は分裂しないこともあります。



花



実

六甲山での分布

須磨の鉢伏山や鉄拐山のウバメガシ群落内に多く生育しています。

生育環境や植生との関係

照葉樹林を代表する種で、六甲山ではウバメガシ群落などでよく見られます。カクレミノは日陰にも耐えるため、暗い林内でも生育できます。

アセビ ツツジ科



アセビの特徴

樹木には毒があり「馬が酔う」との意味合いで、馬酔木（アセビ）と呼ばれます。花の時期は早く、2月半ばから咲き始める壺状の花は透けるような白で美しく、離れた場所からでも容易に見つけることができます。昔から庭木とされ、いろいろな園芸品種があります。



六甲山での分布

六甲山全域に広く分布します。アカマツ林では、アセビばかりが繁茂している場所もあります。

生育環境や植生との関係

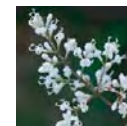
アカマツ-モチツツジ群集やブナ-シラキ群集のような明るい森林を好んで生育しています。

ネズミモチ モクセイ科



ネズミモチの特徴

六甲山系を代表する常緑広葉樹のひとつです。実を「ネズミの糞」に見立て、葉がモチノキの仲間に似ていることから、「ネズミモチ」の名がついたといわれています。葉は対生で厚く光沢があり、全縁で両面とも毛がありません。



六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。特に表六甲の海拔700m以下の地域で多く見られます。

生育環境や植生との関係

常緑広葉樹林でよく見られます。二次林から自然林に広く生育します。

トウネズミモチ

モクセイ科



ネズミモチより葉脈が明らか

葉

トウネズミモチの特徴

庭木や公園樹としてよく植えられる中国原産の外来植物です。

ネズミモチと同様に葉は対生で、厚く光沢があり、全縁で両面とも毛がありません。

葉脈を透かすと、よく似たネズミモチの葉脈は不透明、トウネズミモチの葉脈は半透明なので見わけることができます。



花*



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。特に表六甲の海拔700m以下の地域で多く見られます。

生育環境や植生との関係

常緑広葉樹林でよく見られます。二次林から自然林に広く生育します。

アカマツ

マツ科



葉の先は針のようにとがる



葉



樹皮

アカマツの特徴

やせた土地でも生育することができるため、古くから治山のために植栽されてきました。

針状の葉と、赤みを帯び亀甲に割れ目が入る木肌が特徴です。遠目でも色や樹形ですぐにわかります。

アカマツの葉は比較的やわらかく、先に触れても痛くありません。よく似たクロマツは葉は硬く、触ると痛いので区別できます。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

ほかの植物では生きていけないような岩場ややせ地でも生育します。

Ⅲ

解説

常緑広葉樹

Ⅲ

解説

針葉樹

スギ スギ科



葉の先は鎌の
ように曲がる



葉

樹皮

スギの特徴

日本を代表する植栽木です。スギの葉と細い枝は、線香の原料としても利用されてきました。

幹は直立し、樹皮は赤褐色で縦に裂けます。花は2月から開花し、花粉は3月から4月頃まで飛んでいます。葉は鎌のように曲がって先はとがり、細かな葉が、らせん状にびっしりと付きます。スギの葉の先はとがるのに対し、よく似たヒノキの葉はとがりません。



花



実

六甲山での分布

摩耶山天上寺跡から青谷にかけての人工林には、樹齢100年を超える大樹が見られます。

生育環境や植生との関係

多くの水分を必要とするため、谷部によく植栽されます。植栽地から広がり、ウラジロガシ林やアカマツ林内にも生育しています。

ヒノキ ヒノキ科



葉は小さな鱗が
集まったような形



葉

樹皮

ヒノキの特徴

有用材として植栽され、建材として用いられました。

葉は平面的に枝につき、ウロコが重なったような形をしています。葉や幹はさわやかな香りがします。

よく似たスギとは葉で区別できます。スギは枝から立体的につき、トゲのようにとがって触ると痛いのに対して、ヒノキは枝から平面的につき、触っても痛くありません。



花



実

六甲山での分布

各地に植栽されています。

生育環境や植生との関係

スギに比べて乾燥地に強く、斜面上部や尾根などによく植栽されます。種子から実生苗もよく育ち、尾根のアカマツ林などでも見られます。

フジ マメ科



はじめ毛が密生するが、後に無毛になる

葉

フジの特徴

昔はツル細工に活用されていました。5月に藤色の花を咲かせます。細長い葉が鳥の羽のように並んでつきます。六甲山で見られるフジの仲間には、フジ（藤）とナツフジ（夏藤）があります。葉の縁で区別することができ、ナツフジの葉は縁が波うちますが、フジはあまり波うちません。また、ナツフジの花は夏に咲き、クリーム色です。



花



実*

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

林縁を指標する種ですが、林内にも多く、林の種類を問わず広く見られます。

ツタウルシ ウルシ科



幅広の小葉3枚からなる複葉

葉*

ツタウルシの特徴

他の樹木の幹などをよじ登ったり、地面を這ったりしています。5月から6月頃、小さな多数の花をつけます。実は8月から9月頃に熟します。葉は複葉で、3枚の小葉からなります。若い葉には荒い鋸歯がありますが、成長とともになくなります。秋の紅葉は美しく、林を彩ります。触れるとかぶれてしまうため、注意が必要です。



花*



実

六甲山での分布

六甲山系の中腹以上で見られますが、数は多くありません。

生育環境や植生との関係

ブナ林や暖温帯の山地帯の落葉広葉樹林内で見られます。

マダケ イネ科



全景

マダケの特徴

竹細工の材料として、昔は利用価値が高く、林の手入れが行き届いていましたが、今では、放置されている竹林がほとんどです。
花は120年に一度咲くと言われていません。節の環は二重です。



節



葉

六甲山での分布

ほとんどが裏六甲か須磨周辺の山麓部に分布しています。

生育環境や植生との関係

住宅地の周辺で局所的に、小面積の群落が見られます。

モウソウチク イネ科



全景

モウソウチクの特徴

昔は建築用材、農業資材などとして用いられていました。筍は食べられます。稈は太く、高いものは高さ20mになります。節の環は1重です。花は60年から100年に一度、一斉にイネに似た花が咲くといわれています。
タケは皮で区別できます。モウソウチクの皮は毛が生えていてザラザラで、マダケの皮は毛が無くツルツルです。



節



皮

六甲山での分布

ほとんどが裏六甲か須磨周辺の山麓部に分布しています。

生育環境や植生との関係

住宅地の周辺で局所的に、小面積の群落が見られます。

ネザサ イネ科



全景

ネザサの特徴

葉は茎の上の方につきます。地下に茎を伸ばし、密集して生えます。山麓のハイキング道沿いや、ニセアカシア林の林床などにたくさん生えているのがネザサです。海拔400mから600mあたりを境に、より高い所ではミヤコザサやスズタケというササが優勢となります。



葉



地下茎

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布していますが、自然性の高い林や、林内が暗い林には分布していません。

生育環境や植生との関係

日当たりのよい林内や林縁でよく見られます。ネザサが繁茂すると光が遮られて、林床の草花は生きていきません。

IV. 和名索引

ア行

アカシデ・・・p. 18
アカマツ・・・p. 79
アカメガシワ・・・p. 36
アセビ・・・p. 76
アヘマキ・・・p. 23
アラカシ・・・p. 60
イヌザンショウ・・・p. 37
イヌシデ・・・p. 19
イヌツゲ・・・p. 71
イボタノキ・・・p. 53
イロハモミジ・・・p. 42
ウバメガシ・・・p. 61
ウラジロガシ・・・p. 62
ウラジロノキ・・・p. 34
ウヅミズザクラ・・・p. 29
エゴノキ・・・p. 52
エノキ・・・p. 25
オオハヤシャブシ・・・p. 17

カ行

カクレミノ・・・p. 75
カスミザクラ・・・p. 31
カナメモチ・・・p. 69
ガマズミ・・・p. 55
カマツカ・・・p. 28
クサイチゴ・・・p. 33
クスノキ・・・p. 63
クヌギ・・・p. 21

カ行

クマノミズキ・・・p. 47
クリ・・・p. 20
クロガネモチ・・・p. 73
ケヤキ・・・p. 26
コジイ・・・p. 59
コナラ・・・p. 22
コバノガマズミ・・・p. 56
コバノミツバツツジ・・・p. 51
コマユミ・・・p. 43

サ行

サカキ・・・p. 67
シロダモ・・・p. 65
スギ・・・p. 80
ソヨゴ・・・p. 72

タ行

タラノキ・・・p. 48
ツタウルシ・・・p. 83
トウネズミモチ・・・p. 78

ナ行

ナナミノキ・・・p. 70
ナワシログミ・・・p. 74
ニセアカシア・・・p. 35
ニワウルシ・・・p. 38
ヌルデ・・・p. 39
ネザサ・・・p. 86
ネズミモチ・・・p. 77
ノイバラ・・・p. 32

IV. 和名索引

ハ行

ハゼノキ・・・p. 40

ヒサカキ・・・p. 68

ヒノキ・・・p. 81

フジ・・・p. 82

マ行

マダケ・・・p. 84

マユミ・・・p. 44

ミスキ・・・p. 46

ミツバアケビ・・・p. 27

ミヤマガマズミ・・・p. 57

ムクノキ・・・p. 24

ムラサキシキブ・・・p. 54

マ行

モウソウチク・・・p. 85

モチツツジ・・・p. 50

ヤ行

ヤブツバキ・・・p. 66

ヤブニッケイ・・・p. 64

ヤマウルシ・・・p. 41

ヤマザクラ・・・p. 30

ヤマボウシ・・・p. 45

ヤマモモ・・・p. 58

ラ行

リョウブ・・・p. 49



表紙写真

- ①クリ
- ②カスミザクラ
- ③モチツツジ
- ④アバマキ

写真協力：清水孝之（「*」のついた写真）

六甲山系電子植生図鑑ホームページ

【ホームページアドレス】

<http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/vegetation/>



六甲山電子植生図鑑について

ふだんにげなく見ている六甲山。その風景や自然は、私たちの心を癒してくれるふるさとの景色であり、身近な憩いの空間です。その風景を作り出しているのは、四季を彩る森や樹木たちであり、森や樹木のことをよく知ると、六甲山の自然の成り立ちや状態などが見えてきます。

この「六甲山系電子植生図鑑」は、六甲山の植生、自然を理解する、また、より興味を持ってもらえるように作成しました。最新の植生調査結果を基に、植生の成り立ちや分布について解説しました。また植生を区分するために必要な六甲山の樹木の見分け方や特徴について、解説しました。その他、「植生物語」として、六甲山の植生の移り変わりなどについても解説しましたので、読み物としてもお楽しみ下さい。

国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所